



北村龍人
(御来屋)

新しい生活

去年の夏、フランスの高校を卒業してから僕は家族と共に大山町に引っ越してきました。それまで東京、パリ、と都会にしか住んだことがなかった僕は、大山町ならではの山と海が創り出す美しい景色に驚かされました。でも浜辺に行

くとペットボトルや発泡スチロールなどのゴミが目立ちました。清掃する人もいなかったもので、自分で近くの海岸のゴミ拾いを始めることにしました。自然以外にもう一つ、ここに来て素晴らしいと感じたことがあります。それは、住民が皆あたたかい人たちだということです。見知らぬ土地で半年暮らしてきましたが、大山町に来て良かったと思います。



有本満里子
(松河原)

大山町が好き！

「大山町が好きと言える子」我が子が小学校入学時に、「どんな子どもになって欲しいか」という学校からの問いへの私の答えです。

自分が住んでいる町、大山町が好きだと思える・言える子に育って欲しい。それには、我々大人が大山町を好きになり良くしていくことが必要だと思います。

便利とは言えないけれど、海と山が一度に楽しめ、新鮮な野菜に魚があります。その他には、何と言っても人が好い。あぜ草刈りでもしていれば通りかかった方が声をかけて下さったり野菜を軽トラの荷台に置いて行かれたりします。「元気にしとるかいな」「がんばとるな」「無理されんで」こんなに人間関係が充実している大山町が私は大好きです。子どもたちも「大山町が好き！」と言ってくれる子に育っているのではないのでしょうか。



清水豪賢
(大山)

世は移ろえども

「ありがとう」人にとって大切な言葉の一つです。無数の命の中から人に生まれた事は非常に稀な事で、稀な事に出会ったので有り難し、稀な事をしてもらったので有り難いという言葉が生まれるたといえます。

私が生まれた時、親は私に「生まれてきてくれてありがとう」と言い、その親が死に往く時、私は親に「今までありがとう」と言いました。考えれば人の一生は、ありがとうに始まり、ありがとうに終わるのかもしれない。有り難しほど稀な事でなくとも、ほんの些細な事でありがとうと言いつつ、いつもありがとうが響きあう温かい世の中でありたいものですね。

あとがき

今年、は里部ではほとんど積雪が見られなかった暖冬から、早めの春がやってきました。

大山町議会は合併後4期目の2年が終わり、後半の折り返しに入りました。広報常任委員会のメンバーはすべて交代し、私たち8人が議会だより編集を担当することになりました。

3月定例会は、1年間の予算案を審議し可否を決める重要な議会です。審議過程や結果を紙面に表してみました。いかがでしたでしょうか。

町民のみなさんに手に取って読んでいただけるよう、正確でわかりやすい親しみの持てる紙面づくりに努力したいと思います。

ご意見、ご感想をいただけましたら幸いです。
(大森)

【発行責任者】

議長 杉谷 洋一

【広報常任委員会】

委員長 大森 正治

副委員長 池田 幸恵

委員 西山富三郎

委員 岡田 聡

委員 西尾 寿博

委員 野口 昌作

委員 大杖 正彦

委員 加藤 紀之